

令和6年度 日田もりビジョン推進検討委員会 議事録

日 時 令和6年10月30日(水)14時～15時40分

場 所 日田市役所 7階中会議室

次 第

1. 開会
2. 林業振興課長あいさつ
3. 委員の委嘱
4. 委員紹介
5. 委員長選任
6. 委員長あいさつ

7. 議題

- (1) 日田もりビジョンの取組状況について 別添資料
 - ・取組実績、施策体系別目標値など

8. 報告

日田林工高等学校「林業科」の全国募集開始について 別添資料

9. その他

1. 開会

2. 林業振興課長あいさつ

3. 委員の委嘱

- ・今年度が委員の改選のため、委嘱状を交付

4. 委員紹介

- ・委員の紹介

5. 委員長選任

- ・委員の互選により、大分県林業経営者協会の長哲也氏を委員長に選任
- ・委員長職務代理者に日田市森林組合の和田正明氏を委員長が指名

6. 委員長あいさつ

お忙しい中、出席をいただきありがとうございます。

この会議は、「もりビジョン推進検討委員会」ということで、策定したビジョンが円滑に推

進されているかどうかを検証する会議です。我々は業界のそれぞれの代表者であり、業界と
いいますと日々変動する経済とともにありまして、非常に問題を抱えています。今年の会議
で、自分の思っていること、業界の立ち位置といえますか、それを確認することも意義があ
ると思われます。委員長に選任されましたので、よろしくお願いします。

4. 議題

(1) 日田もりビジョンの取組状況について

(委員長)

年間1回ぐらいを予定している会議ですが、なるべく多くの委員さんに意見を頂戴したい
と思っています。それでは、次第に従い議題の(1) 日田もりビジョンの取組状況につい
て、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

日田もりビジョンの取組状況について説明〔省略〕

(委員長)

ビジョンの施策体系、三本柱があるんですが、それを具体化して具体的にこれを生かして事
業をするには、いろんなことをイメージしながら、業界とか、そういう立場とか背景を理解し
てしないといけないのではないかと思います。

そういうことも踏まえながら、それぞれの業界の皆様から質問、もしくはご意見を頂戴した
いと思います。

(委員)

持続可能な森林経営の推進というところで、聞いたところによると、来年度から下刈りの補
助が大幅に削減されるとのことです。今は、間伐よりも主伐をして再生林のほうにウエイトを
おいているみたいで、再生林まではやっても、下刈りのほうで3年ぐらいの助成ということで
持続可能な森林経営ができるのかという不安があります。市として、公共造林の補助の上乗せ
または、単独で市の補助を何か考えているかお聞かせください。

(事務局)

下刈りについては、来年から厳しくはなるんですが、必要なところについては写真等で事務
手間はかかりますが、今までどおり続けるということにはなっております。今は、市の上乗せ
は、6年生で独自で10万円ほどつけています。ご意見をいただきながら検討してまいりたい
と思いますし、県には私共からも話をして、対応していきたいと思っています。

(委員)

市の単独としては、6年目の山については、単独で補助が出るということですか。

(事務局)

今まで通り、その予定です。

(委員長)

4、5、6年生が一番山が荒れます。3年生で下刈り補助をきるということは、一番荒れるときに放置するということになるので、なんとか、考えていただきたいところです。これは、要望でもあります。ほかにありますか。

(委員)

5 ページの中で、経営計画の認定率については、日田市の民有林の中で 79.3%の計画が立てられており、あと 2 割、なかなか増やすのは難しいということですが、これの障害となっているのは、相続とかそういうことですか。この 2 割、結局、荒れてしまっているというか、持ち主が分からないなどで増えていかないということですか。

(事務局)

森林経営計画については、森林組合とかが立てているんですが、委託して管理を任せるという中で、中には、自分で管理するから経営計画には入れていないという方もいます。一概に全部荒れているという訳ではありません。

(委員)

経営計画は大規模な所有者が立てるものと、森林組合さんが立てるものがあります。それを合わせたものがこれで、2 割というのが気になって、結局、手つかずの状態の山が一番問題になるかなと。全国の中で日田市は、認定率が高いということはいいいことだとは思いますが、やはり、この 2 割をどうしていくかで日田の森林の全体が保たれるか保たれないかが決まってくると思います。そこは大変なことだと分かりますが、今後、検討していただきたいと思います。

(委員長)

8 割を 9 割にするというのは難しいですね。森林組合が頑張って名義を調べたとしても、亡くなっていて、その息子さんとか、お孫さんとか探すのは、不可能になってきています。追いかけるというのは限界があります。8 割というのは全国的にみても限界に近いところで、相続が出来ていないケースが多い中で、増やすのは難しいと思います。私の感触です。

(事務局)

補足しますが、令和元年度から森林経営管理制度が始まり、併せて財源として森林環境譲与税が市に入ってきています。森林経営管理制度というのは、経営計画に入っていない未整備のところを森林所有者に意向調査を出して、自分で管理しますという方もいれば、市に整備してほしいという方もいて、必要に応じて市が整備するなど、なるべく対応をしていきたいと思っています。

(委員)

課長のあいさつの中で、J-クレジットの取組を始めるというものがありましたが、森林の持つ多面的機能を活用してクレジットを取得して販売して、それをどう使おうとしているのかをお願いします。

(事務局)

日田市がやろうとしていることは、市有林を対象に J-クレジット制度で取組ができないかということを経営で検討しているところです。J-クレジットで資金も、資源も循環させるという考え方の中で、民間にクレジットを買っていただくということが実現できれば、日田市の財源として、それは、森林整備に生かしていくという考え方になると思っています。

(委員)

14 ページの森づくり大会の参加者数 248 人は、12 ページとかの参加者数ですか。今、目標 200 人に対して 248 人ということなので、目標は達成しているのかなと思うんですけど。

今後、もっと増やすために SNS の活用などを考えていますか。

(事務局)

森づくり大会ということで 11 ページにある「市民参加の森づくり事業」という植樹祭の関係の指標になります。年度によって多い少ないはありますが、筑後川流域の方との交流ということで、植栽する面積が場所によって急傾斜であったり、危ないところがあったりということで、だいたい 200 人程度が過去の実績から、限界かなとというところで設定しています。

(委員)

14 ページの目標値の中の林業就業者数が実績として 33 名となっていますが、こういった方々か内訳を教えてください。

(事務局)

県からの数字ですが、林業アカデミーの卒業生が 4 名で、その方々は市内で就業されていて、その他の詳細は、把握できていません。

(委員)

業界の現状を少しお話しします。

最近、B to C の一般向けの販売が大きく落ち込んでおり、販路開拓ということで、主に B to B、企業向けの注文家具の販売に軸足を移しているところです。一例をあげると先日、オープンした長崎のスタジオの内装家具や什器等の一部が日田のものとなっています。また、今年の春から J R 九州の「かんぱちいちろく」が運行されていますが、その内装家具も日田が担当しています。その他、ホテルの内装家具であるとか、オフィス家具等 B to B の比率が大変多くなっ

ています。

また、資料の 8 ページにあるスギの学習机と椅子の入れ替えに取り組んでいます。

令和 10 年度までに年間 1,000 台のペースで市内の小中学校の机・椅子を入れ替える予定です。最近、評判が広がって、福岡県のある自治体から注文があり、その小中学校が合同校舎になり、来年の 4 月開校で、机・椅子を 550 台納品する予定にしています。

それから、入れ替えるにあたって、古い机・椅子が出てくるので、それをどう処分するのが問題になっており、今、サステイナブルとか、SDG s とかいろんな観点から、どうやって活用するのがいいかと検討しているところであり、全国展開をしている大手の小売店と提携して、その小売店のワークショップの材料としてこれを使えないかという話を進めています。このように使い古しの机・椅子が全部で 5,000 台くらい出てくるので、それをどう活用するか取り組んでいます。

（事務局）

今、委員が言われたのは、日田市の林業成長産業化の取組の中で製品開発を委託して学校の机・椅子の新しいかたちことができました。廃棄する 5,000 セットの利活用については、従来から頭の痛いところで、焼いて処分するだけではもったいないので、是非、リサイクル、SDG s の観点で考えると、もう一度使える場面があればと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

（委員）

家具の件で気になったのが、木づかい促進事業で家具 13 件とあります。これはどんな家具なのか、箱モノなのか足モノなのか、日田材を使っているのかとか、どうなんでしょうか。

（事務局）

木づかい促進事業は、新築の場合は基本額 30 万円で、30 万円分の木材、柱とか板とか現物を支給するパターンと、30 万円分の家具ポイントといって、新築された方、リフォームされた方にポイントを支給して、1 ポイント 1 円となり、対象となる家具カタログを作っていますので、その中で該当ポイント分の家具を選んでいただきます。支給ポイントを超える家具については、手出しをしていただいて交換してもらうという制度になります。もちろん、日田材を使った家具です。

（委員）

家具ポイントを使うには、ハードルが高いんですかね。

（事務局）

家具だからとか、柱などの現物支給だからとかではなく、同じ要件で、日田材を 80% 以上使う、木材を 15 m³ 以上使う、市内の工務店を使うなど、要件は、家具でも現物支給でも同じ要件です。

(委員)

説明があったビジョンの関係は、いろんな数字が出ていますが、去年の改訂から1年という段階でこれからだと思っています。

そこで、質問ではなく、夏以降の現状だけ報告します。

1点目は、公共造林予算の削減ということで、来年度下刈りについては3年生まで、それ以降は、悪ければ写真を撮って管理すれば対象にしますというかたちに規定が変わりそうだと報告を受けている段階です。

どうなるかを考えた時に、今の山林所有者で森林経営を一生懸命考えている方は、非常に少なくなっています。そういう方たちが、3年生以降になった山は写真が必要でそれが対象になりますとなったら、何もしないと思います。これが、公共造林事業が目指すところなのかなと、大きな疑問を感じていて、そんなことも林野の方はわからないのかなと、たいへん憤りを持っています。今、業界も動いて、担い手づくりをして、造林作業者を増やせ増やせという話になっていますが、こういう現象が起きてくると、夏場に造林作業者は仕事がありません。そうすると、どこかに転職せざるを得ない、林業には先がない、となる可能性があるということを十分理解しておいてください。そういう可能性が出てくるということです。

それから、山を手放す人が増えています。組合の総会が終わり、出資配当の案内をすると、そのうちの2割から3割くらいの方が、うちの山を処分してほしいと言われます。そういう人の対策を何らか考えないといけません。そこを請け負うのが森林組合だろうと言われればそれまでですが、そう簡単には買えないというのが現状です。当然森林組合も頑張るので、行政と一緒に考えていかなければならない。それだけ、そういう所有者が増えてきたというのが2つ目です。

最後に、今年度の原木協の取り扱い、売り上げの資料をもらったんですが、今年になって、日田素材買方協同組合とそれ以外の方の買い上げの材積、金額等々、今年度すべて逆転をしている状況になっています。これは、日田独自の市売り方式の土場の販売というやり方を変えていかなければいけないような、そういう曲がり角にきているのかなと言わざるを得ないと思います。どうしていけばよいかはわからないところがあるので、行政と事業体、いろんなところで協議をしながら、いい方向になるように検討していただきたいと思います。

(委員長)

以上で、7. 議題を終了します。

8. 報告

(委員長)

報告事項を事務局お願いします。

(事務局)

日田林工高等学校「林業科」の全国募集について報告〔省略〕

(委員)

日頃、本校の、特に林業科の学習活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。全国募集に関しても多方面より、いろんなご協力をいただき、このようなかたちで進んでいるところであり、併せて感謝します。

林業科については、ここ数年 25 名程度の生徒ということで推移をしております。来年は 35 名定員ということで発表があり、その数値を目指してやっていきたいと思います。卒業後の進路関係についても、市内の事業所、官公庁含めて、いろんなご協力をいただいております、引き続き、地元に残すような指導をしていきたいと思っています。

現在、全国募集に向けての広報活動につきましては、リーフレットとかそういったものを関係各所に送付し、それから林業科に特化したホームページに近い、ランディングページといわれるものを作成途中で 11 月に公表することで進めています。

入学生につきましては、木材協同組合等々のご協力をいただきながら、教材への補助、給付型の奨学金制度といったものを設けていただいております、そういうものも、いろんなところで発信していきたいと思っています。

それから、3 年生の進路の状況です。25 名在籍しており、専門の企業に内定が 14 名、そのうちの 12 名が日田玖珠管内、アカデミーに 2 名で、公務員については、結果待ちというところですが 2 名、進学が 3 名、専門外の企業等については 4 名になっています。

引き続きご協力をよろしくお願いします。

(委員長)

林工の全国募集は、原木協が立ち上げた森の担い手事業の中の一環で市の棕野市長をはじめ林業振興課の方々が熱心にされたおかげで実現したという背景があります。

土木・建築のほうも卒業生は優秀ですし、土木は特に、被害が九州は多いですからこれを機に、土木・建築のほうも全国募集がかけられるといいなと私は希望しています。

それでは、8. 報告まで終了しましたので、今までの会議についての総評をお願いします。

(委員)

県も森林づくりビジョンというのをつくっており、2 年前に変更作業に取り掛かっていたんですが、知事が替わり、急遽、県全体の長期計画自体の見直しということになり、森林づくりビジョンも長期計画の中に取り込んでいこうということで、ビジョン自体は廃止ということになりました。

日田市さんは、引き続き振興ビジョンを作って、林業・木材産業の振興のために取り組んでおられるということで、心強く思っております。

県はビジョンを引き継いで、今年度、農林水産業の長期計画を作成しております。林業につきましては、循環型林業の確立、木を伐って、使って、もう 1 回育てていこうと、それを大きなテーマとして計画を策定したところです。

日田市につきましては、3 つの施策、目指すべき方向ということでつくられているという

ことですが、皆さんの質問とかを聞いておまして、下刈り補助金の問題については、私たちも心苦しいところですが、いかんせん、国のほうの予算がない。全国的に主伐が進んで、それに対して再造林を進めていかないといけないというところで、どうしてもそちらのほうにウエイトがいつているところです。県としても、毎年、知事が関連省庁をはじめ政府に要望をしているところで、今年も引き続き造林補助金について、皆さんの実情を訴えていきたいと思っています。

J-クレジットの関係です。これにつきましては、県営林の中で、土地も上ものも県のものという山についてクレジット化を進めています。当初の予定では、今年度、販売までできればと思っていたんですが、登録を今年度中にやって、来年度以降クレジットを商品化しようという流れになっています。県は、このJ-クレジットの収入については、県営林が特別会計になってますので、そこに充当していくこととなります。

あと、日田林工の全国募集については、募集の告知も林業だけでなく、農業の移住フェアとかが東京・大阪・福岡でありますので、そういう機会でも広めていきたいと思っています。

（委員）

皆さんの様々なご意見を聞くことができました。貴重なご意見、そして問題提議をいただいたと思っています。

ビジョンは、3つの分野で各種施策に取り組むということで、本市の森林・林業・木材産業の振興に取り組んでいます。

このビジョンを策定した当時の平成27年のころからも林工の林業科の話というのも出ており、そういうところのテーマ、林工の林業科との積極的な連携のテーマというところが、今回のひとつの方向性として、全国募集という取組につながったというのは、やはり、林業関係者の皆様の連携、協力があつてのことだと、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

それと、森林経営管理制度、これは、未整備森林の整備促進ということで、貴重な森林環境譲与税という財源を使いながら有効的に行っていきたいと思っています。

このように、継続的に、一步、一步進んでいくような取組もあれば、国等の動向を注視して新たな事業にも取り組んでいきますので、市としてもきっちりこのビジョンの中に盛り込んでいきたいと思っています。そして、本市の森林・林業・木材産業の関係者の皆さんと連携をして、本ビジョンに掲げている目標の実行に向けて、積極的に取り組んでいくとともに、ご提案いただいた、次々に発生している課題、公共造林の話も、待ったなしの状態になっていると改めて感じていますので、県と連携して取り組んでいきたいと考えており、引き続き皆様方のご指導ご協力をお願いします。

（委員長）

ありがとうございました。

これで終わりますが、最後にその他をお願いします。

9. その他

(事務局)

12/1 開催の木と暮らしのフェア、講演会の案内

(委員長)

以上で、終わらせていただき、事務局にお返しします。

(事務局)

課長のお礼のあいさつ

令和6年度日田もリビジョン推進検討委員会委員名簿

任期：R6.10.30～R8.3.31

No	所 属	役 職	氏 名	備 考
1	大分県林業経営者協会	会 員	長 哲也	
2	日田市森林組合	専 務	和田 正明	
3	日田木材協同組合	製品共販課長	宮崎 桂一	代理 内藤 賢児
4	日田地区原木市場協同組合	業務委員長	長谷部 敬	
5	大分森林インストラクター会	会 員	河津 文昭	
6	大分県建築士会日田支部	支部役員	澤熊 祐子	
7	株式会社トライ・ウッド	常 務	古川 和博	
8	協同組合日田家具工業会	事務局長	上部 和彦	
9	日田林工高等学校	林業科主任	後藤 英次郎	
10	大分県西部振興局農山村振興部	部 長	工藤 祐一	
11	日田市農林振興部	部 長	鈴木 浩美	

事務局：林業振興課